

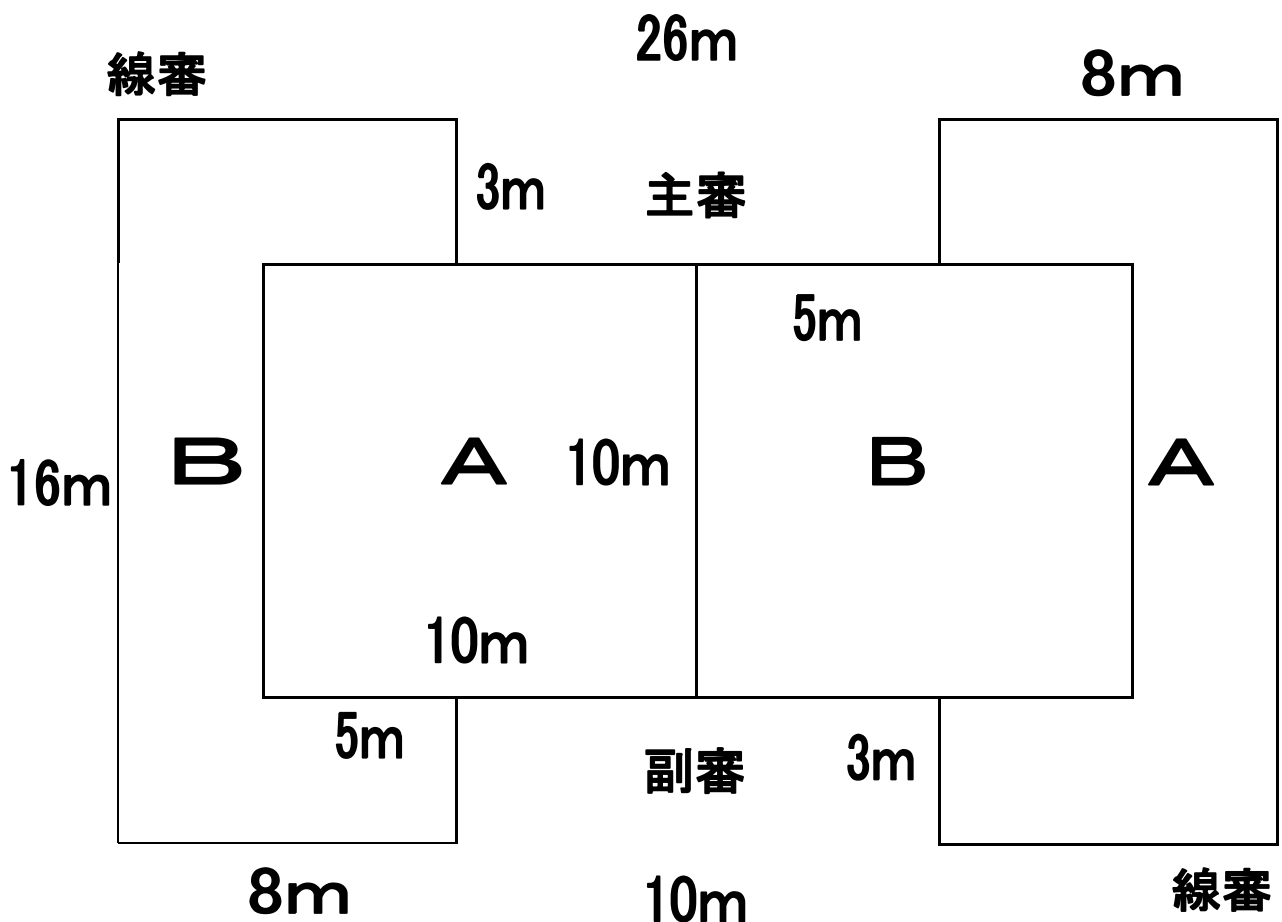
取手市教育委員会小学生ドッジボール大会ルール

チーム編成

- ① 市内小学校在学の4～6年生。
- ② 男女別でチームを編成すること。ただし、人数が揃わない場合は混成チームも可。
- ③ 1チームの選手登録は最大18名まで。試合は原則12名で行う。
- ④ 成人1名を監督兼責任者、選手1名を主将とすること。

時間・用具・コート

- ① 試合は3セットマッチ。1セットは7分、セット間の休憩は2分。
※ 参加チーム数による変更あり。
- ② 試合間の休憩は原則10分。
- ③ 試合球はJDBA公認球(3号)。
- ④ 試合中、選手はゲームベストを着用すること。
- ⑤ 内野コートは10m×10mの広さとし、その他下図の通り。



試合方法

《始めと終わり》

- ① 主審の合図により、両チームの選手はセンターラインをはさんで整列し挨拶をする。
 - ② 第1・3セット目は、じゃんけんでボールかコートを決め、ボールを選んだチームの内野から開始。
第2セット目は、コートチェンジ後、第1セット目にボールを選んだチームとは反対のチームの内野から開始。
- ※ 各セットの開始時に外野を1名以上11名以内で配置すること。
- ③ 終了後は開始前と同様に、両チームの選手は整列をし、主審から勝敗のコールを受け挨拶をする。

《勝敗》

- ① セットの勝敗は、相手の内野を全員アウトにしたチーム、またはセット終了時の内野が多いチームが勝ち。ただし、内野が同数だった場合は引き分け。
 - ② 試合の勝敗は、2セットを先取したチームが勝ち。ただし、勝ったセット数が同じ場合は、各セット終了時の内野の合計で勝敗を決める。それでも勝敗が決まらない場合は3分の延長セットを行い勝敗を決める。
- ※ 勝ったセット数が同じとは、互いに1勝1敗1分と0勝0敗3分の場合。

《選手交代および作戦タイム》

- ① 選手交代は、セットの開始前と、セット中の負傷で主審が続行不可能と判断した場合のみ可。
- ② 負傷者を復帰させる場合は、次のセット開始まで待つこと。
- ③ 試合中の作戦タイムは設けない。

《内野復帰権》

- ① 外野は、相手の内野をアウトにしない限り内野に移れない。また、相手の内野をアウトにしてもすぐに内野に入らないときは、内野への復帰を放棄したとみなす。
- ② 外野が相手の内野をアウトにし、内野に移ることで外野がいなくなる場合は、内野に移れない。

《アウト》

- ① 内野が相手の内野や外野の選手が投げたノーバウンドの投球を捕れなかったとき。
- ② 2人続けて当たったときは、最初に当たった選手のみアウト。
- ③ アウトの選手が出た場合は、試合を中断し、アウトになった選手のチームの内野から開始。
- ④ アウトとなった内野の選手は、自チームの外野へ移ること。
- ⑤ アウトを取った外野の選手は、自チームの内野へ復帰できる。ただし、外野がいなくなってしまう場合、復帰できない。

《セーフ》

- ① 内野が相手の内野または外野の選手が投げたノーバウンドの投球にあたり、そのボールが空中にある間に、味方の選手または当てられた選手自身がノーバウンドでファールをせずに捕球した場合はセーフ。
- ② ノーバウンドの投球が顔や頭に当たったとき。

《ファウル》

- ① ノーバウンドの投球で相手の顔や頭に当てないこと。
 - ② 投球の前後や捕球の際にラインを踏んだり越えないこと。ラインを出て相手を当ててもアウトにならない。
 - ③ 相手の内外野エリアにあるボールを手や足で引き寄せないこと。
 - ④ 捕球してから5秒以内に投げること。転倒しながら捕球した場合は、立ち上がってから5秒以内に投げること。
 - ⑤ 故意に相手選手に接触しないこと。
 - ⑥ パスは連続4回までとし、5回目の投球はアタックであること。また、味方の内外野同士のパスは禁止。
- ※ アタックとは、防御側の内野がTの字に立った状態で、攻撃側の内野が投げたボールの軌道が肩より下を通過するノーバウンドの投球をいう。
- ⑦ 内野の選手が逃げる時にラインを踏んだり越えることがたび重なったとき。

《ボールデッド》

- ① ボールが内外野エリアの外に出たとき。
 - ② ファウルがあったとき。
- ※ ボールデッドになった場合、試合を中断し、①の場合は最後にボールに触れた選手のチームとは反対のチームの内野、②の場合はファールをしたチームとは反対のチームの内野にボールが移り、主審の合図で試合を再開。

《その他》

- ① 試合中のトラブルにおける判断は、主審に委ねる。場合に応じて主審と副審で協議を行う。その場合は、ロスタイムを適用。
- ② 審判の判定への不服申し立ては一切受け付けない。

※本競技規則は、一般財団法人日本ドッジボール協会公式ルールを参考にしながら、教育委員会が独自に定めたものである。なお、下線部分は今回からの変更点である。